Imagine.
Roland®

iModela iM-01

DG Value News

第31期のご報告 2011年4月1日～2012年3月31日

ローランド ディー.ジー.株式会社
(証券コード 6789)

企業スローガン

創造の喜びを世界にひろめよう
BIGGESTよりBESTになろう
共感を呼ぶ企業にしよう

代表取締役会長　五十嵐 弘

代表取締役社長　冨岡昌弘

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
第31期（2011年4月1日～2012年3月31日）が終了いたしましたので、事業の概要および連結の決算のご報告を申し上げます。

2012年6月

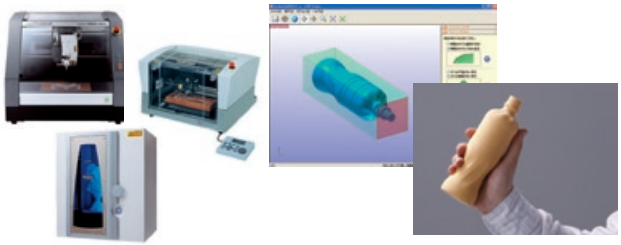
事業内容

カラー事業

屋外の大型看板やポスターなどを製作するサイン業界に向けた業務用大型プリンターを展開しています。メタリックプリンターやさまざまな素材への直接印刷が可能なUV-LEDプリンターで付加価値の向上を図っています。

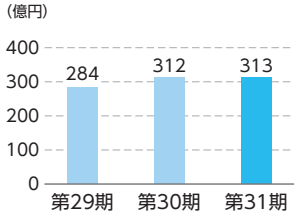
3D事業

刃物を使って形状を削り出す3次元切削加工機やデジタル彫刻機、3Dレーザースキャナーなどで、ものづくりのデジタル化・効率化を提案しています。

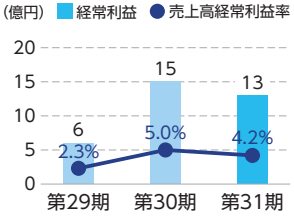


■連結財務ハイライト

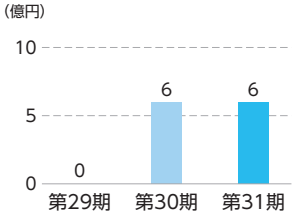
売上高



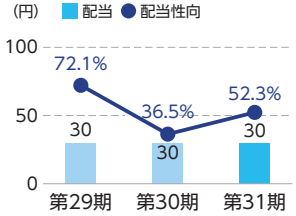
経常利益／売上高経常利益率



当期純利益



配当／配当性向（単体）



(注)記載金額は表示単位未満を切り捨て、比率は小数点第1位未満を四捨五入して表示しております。

第31期（2011年4月1日 ～2012年3月31日）連結業績について

厳しい経済環境の中、売上高は前期並みを確保いたしました

当期は、震災の影響によるサプライチェーンの混乱や欧州債務危機にともなう景気の減速、為替の円高進行など、総じて厳しい状況が続きました。このような中、顧客にとって付加価値が高い製品で市場の活性化を図るとともに、新市場の開拓や顧客層を広げる新製品の投入が奏功し、売上高はほぼ前期並みとなりました。一方、利益面では、インクや新製品による原価低減効果がありましたが、震災にともなう部品調達難による減産や円高の影響などで、営業利益、経常利益ともに減益となりました。なお、前期はのれんの減損による特別損失が約3億円あったため、当期純利益は増益となりました。

第31期 連結業績

売上高	313億79百万円（前期比	0.3%増）
営業利益	14億49百万円（前期比	16.5%減）
経常利益	13億24百万円（前期比	15.9%減）
当期純利益	6億87百万円（前期比	9.8%増）

カラー事業の概況について

先進国サイン市場では顧客の付加価値向上を図る提案で市場を活性化しています

当社では、成熟が進んでいる先進国サイン市場に向けて、金色や銀色などの表現を可能にしたメタリックプリンターでサインに新しい価値を提供し、市場を活性化しています。当期には、メタリックインクにも対応し業界最小サイズで購入しやすい価格のBN-20を発売し、店舗内の装飾やTシャツなどのアパレル装飾用途などで導入が進みました。さらに、UV-LEDプリンターの新製品LEJ-640は、ロール状のシートから板材までさまざまな素材に印刷できることで顧客の仕事の幅を広げ、サイン市場でのUV-LEDプリンターの需要を開拓いたしました。当社では、新たな付加価値を提案する製品展開で先進国の需要拡大を図っています。

UV-LEDプリンターでは用途開発と新市場開拓が進んでいます

UV-LEDプリンターでは、さまざまな素材に印刷できる特徴を活かして新市場開拓を進めています。これまで開拓を進めてきた印刷市場に加えて、当期に投入したLEJ-640は、パネルやクラフトボードなどのサイン製作に広く受け入れられました。小型フラットタイプのLEF-12は、立体物へ直接印刷ができるため、日用品へのオリジナル装飾を実現します。特にスマートフォンケースやノベルティグッズの装飾を行う新規ビジネスへの導入が増え、UV-LEDプリンターの新たな用途を広げました。このように高付加価値化や個性化、差別化の提案により導入分野が増えており、今後も市場領域を広げてUV-LEDプリンターの販売拡大を図ります。

アジア本部およびタイ工場の設立で新興国向けビジネスモデルを構築します

新興国の中でも高い成長が見込まれるアジア地域では、先進国サイン市場とは異なるニーズが存在しています。特に中国では、屋外広告物の製作に、コストの安い水性インクと合成紙が使われます。プリンター本体についても、現地メーカーの安価な水性プリンターが多く、競争が激しくなってきています。

■ 中国市場と先進国市場の特徴

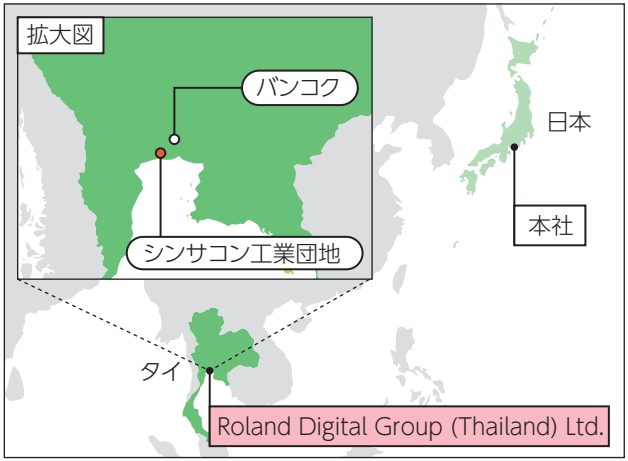
	中国市場	先進国市場
サイン市場特性	水性インク＋合成紙 短期間の掲示	溶剤インク＋ビニールシート 長期間の掲示
プリンター需要特性	水性プリンター中心 画質性能より価格重視 プリント機能のみ	溶剤プリンター、UVプリンター 高画質、付加価値印刷性能重視 プリント＆カット機能
競争環境	現地メーカー多数	日系メーカー中心

当社では、アジアでの事業を拡大させるため、2011年10月に製販技一体となったアジア本部を新設し、直接マーケティングや新興国向けの製品企画・開発を進めています。さらに、現地ニーズに合った価格や機能を持った製品を実現するため、当社初の海外生産工場として、タイに子会社Roland Digital Group（Thailand）Ltd.を設立し、2012年10月に稼働開始する予定です。タイ工場は、現地生産だけでなく部品の海外調達拠点としての役割を果たすとともに、取引を外貨建てで行うことで為替の影響を軽減する役割を担います。アジア本部との連携の下、タイ工場を戦略拠点と位置付け、新興国地域のビジネスモデルを構築してまいります。

▲タイ工場完成イメージ図

会社概要

社　　名：Roland Digital Group（Thailand）Ltd.
（ローランド デジタルグループ タイランド）
資 本 金：2億タイバーツ（約5億円）
設　　立：2011年11月8日
2012年10月稼働開始予定
所 在 地：サムットサーコーン県のシンサコン工業団地内
（首都バンコクから南西約30km）



設立の目的

・新興国の需要に適した製品の企画、生産
・コスト競争力の強化
・災害リスクの分散、為替変動リスクの低減

▲2012年4月末現在の様子

3D事業の概況

デジタル化を必要とする新たな分野の開拓を進めました

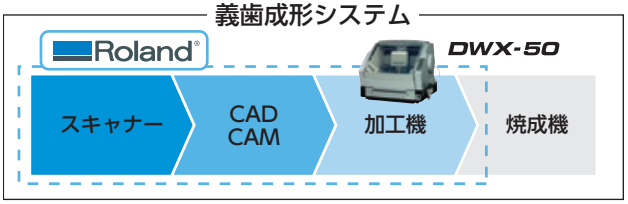
3D事業では、コンパクト・簡単操作・導入しやすい価格をコンセプトとした製品展開で、デジタルものづくりを提案しています。近年のコンピュータ技術の発展や社会ニーズの高度化、多様化により多品種少量生産や短納期化、個性への対応が求められ、製造業、彫刻業、宝飾業、教育機関などさまざまな分野でデジタル化が進んでいます。当期には、デンタル（歯科医療）業界やパーソナル（個人）向けの市場開拓をスタートさせ、新しい分野へデジタルものづくりを広める活動を推進しました。

※パーソナル市場の開拓については、P9-10の特集をご参照ください。

義歯成形にデジタル加工の浸透を目指します

デンタル業界では、入れ歯や被せ物の義歯素材に新素材ジルコニアが登場し、その成形には切削加工の工程が必要となっています。昨年はじめに、たて・よこ・高さに回転軸と奥行き方向を加えた5軸制御の加工機DWX-50を市場に投入し、歯科技工所を中心に販売を進め好評を得ました。今後、より一層の普及を図るためには、加工機に加えて成形工程に不可欠な周辺機器やCAD/CAMソフトウェアなどをトータルシステムとして提案するとともに、教育や啓蒙活動によってデジタルデータを使った成形加工の浸透を図ることが重要です。すでにイタリアの販売子会社では、実際の歯科医院・技工所をイメージしたアカデミーを社内に開設してデジタル加工初心者への教育を進め、販売成果を挙げています。このノウハウをグローバルで横展開するとともに、トータルソリューションの整備に取組み、需要拡大を図ってまいります。

義歯成形システム



▲イタリアの販売子会社が開設したデンタル教育用ラボ

次期の見通し

プリンターの販売増加、アジア地域への注力で増収増益を目指します

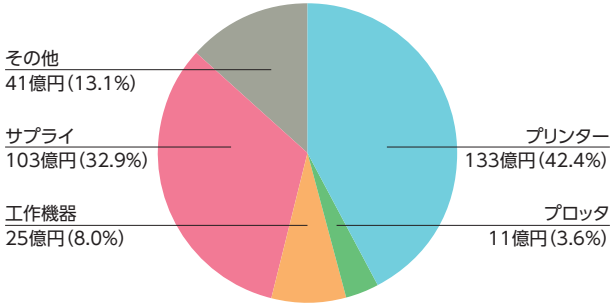
新興国では引き続き緩やかな成長が予想される一方、先進国では欧州を中心に景気減速や円高の継続が懸念され、厳しい経営環境が続くものと思われます。当社では、事業の軸を増やすべく用途開発や新規市場での顧客開拓を推進するとともに、アジア地域を中心とした新興国需要を取り込んで成長を目指します。次期につきましては、品目別ではUV-LEDプリンターや新興国向けの新製品を中心としたプリンターのプロモーション強化を図り、また地域別では特にアジアでの販売拡大に注力することで、増収増益を予想しています。

第32期（2013年3月期）通期 連結業績予想

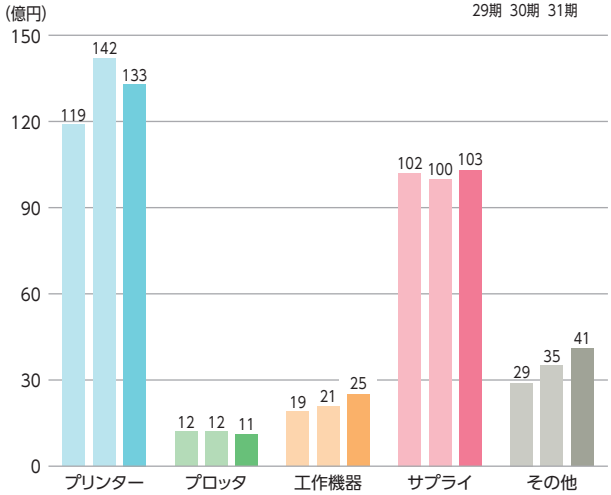
売上高	340億円	（前期比 8.4%増）
営業利益	18億円	（前期比 24.1%増）
経常利益	16.5億円	（前期比 24.5%増）
当期純利益	7億円	（前期比 1.8%増）

品目別連結売上情報

■ 売上構成比（31期）



■ 売上高推移



(注)記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

プリンター 売上高133億24百万円（前期比6.2%減）

メタリックプリンターVSシリーズが底堅い販売だったことに加えて、デスクトップサイズの溶剤プリンターBN-20やUV-LEDプリンターの新製品LEJ-640、LEF-12が売上を下支えしました。一方で、アジア向け機種の販売が競争激化の影響で伸び悩んだことや欧州の金融不安により高額機種の販売が減少したことで、前期に比べ減収となりました。

プロッタ 売上高11億25百万円（前期比9.3%減）

プロッタは、カット機能付きプリンターへのニーズの移行や買い替え需要が中心であることから減収となりました。

工作機器 売上高25億7百万円（前期比14.9%増）

工作機器は、主力の切削加工機や彫刻機が堅調だったことに加えて、デンタル加工機の販売が進み、前期に比べ増収となりました。

サプライ 売上高103億13百万円（前期比2.5%増）

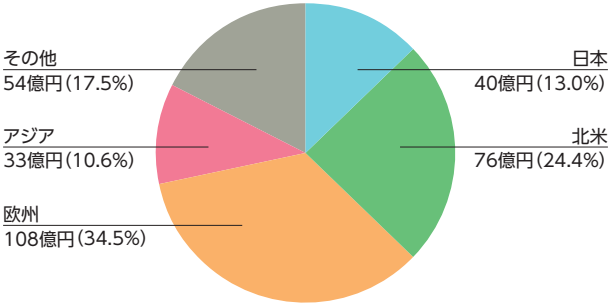
海外ユーザーを中心に仕事量が回復したことや、価格政策による積極的な販売促進活動が奏功し、インクを中心に前期を上回りました。

その他 売上高41億8百万円（前期比14.5%増）

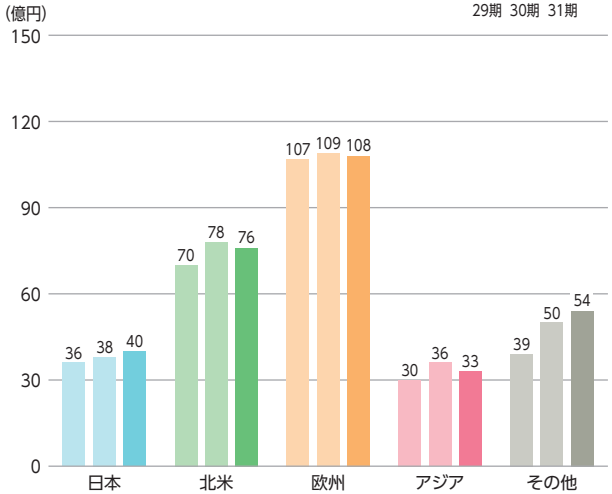
サービスパーツの販売が増加し、増収となりました。

地域別連結売上情報

■ 売上構成比（31期）



■ 売上高推移



(注)記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

■ 日　本 売上高40億69百万円（前期比5.5%増）

UV-LEDプリンターの新製品LEF-12による装飾印刷市場の開拓が進んだことに加え、顧客への直接アプローチ活動によりメタリックプリンターなどの販売が進んだことや、工作機器のデンタル加工機が売上増加に寄与いたしました。

■ 北　米 売上高76億67百万円（前期比2.0%減）

メタリックプリンターVSシリーズが堅調な販売で推移したことに加えて、デスクトッププリンターBN-20がTシャツ製作業者や小規模のサイン業者へ導入が進みました。また、UV-LEDプリンターの新製品LEJ-640のサイン市場に向けた販売が伸長いたしました。しかしながら、売上高は円高の影響を受けて前期と比べ減収となりました。なお、為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、9.3%の増収となりました。

■ 欧　州 売上高108億36百万円（前期比1.2%減）

円高の影響に加えて、金融機関の融資引き締めによる顧客の資金調達難が続き高額機種の売上が減少しましたが、UV-LEDプリンターLEJ-640やメタリックプリンターなどが売上に貢献し、売上高は前期と比べ微減にとどまりました。なお、為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、3.7%の増収となりました。

■ アジア 売上高33億18百万円（前期比8.0%減）

第1四半期に行った減産にともない中国向け出荷を抑制したことや現地メーカーとの競争が激しくなったことなどから、前期と比べ減収となりました。

■ その他 売上高54億87百万円（前期比9.2%増）

サッカーワールドカップ需要が収束した南アフリカや前期に好調だったブラジルが伸び悩みましたが、ブラジルを除く中南米地域の拡大や当期より連結範囲に含めたオーストラリア子会社の売上が増加したことで、前期と比べ増収となりました。

Point 連結貸借対照表

流動資産では、前期末と比較して法人税等の中間納付やタイに設立した子会社への出資などにより現金及び預金が20億円減少しました。一方、たな卸資産が5億円増加しました。

固定資産では、大久保事業所の売却により建物及び構築物や土地などの有形固定資産が6億円減少しました。また、タイ子会社への出資などにより投資有価証券が3億円増加しました。

流動負債では、支払手形及び買掛金が14億円減少、また当社の課税所得の減少などにより未払法人税等が6億円減少しました。

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科　目	30期末	31期末
（資産の部）		
流動資産	21,633	20,037
固定資産	9,497	9,297
有形固定資産	7,028	6,375
無形固定資産	1,422	1,368
投資その他の資産	1,047	1,553
資産合計	31,131	29,335
（負債の部）		
流動負債	5,912	3,843
固定負債	422	711
負債合計	6,335	4,555
（純資産の部）		
株主資本	26,699	27,011
その他の包括利益累計額	△2,645	△3,019
少数株主持分	741	788
純資産合計	24,796	24,780
負債純資産合計	31,131	29,335

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科　目	30期	31期
売上高	31,282	31,379
売上原価	19,814	19,582
売上総利益	11,468	11,796
販売費及び一般管理費	9,731	10,346
営業利益	1,736	1,449
営業外収益	164	106
営業外費用	324	230
経常利益	1,576	1,324
特別利益	15	9
特別損失	336	14
税金等調整前当期純利益	1,254	1,320
法人税等	587	570
少数株主損益調整前当期純利益	666	749
少数株主利益	40	62
当期純利益	626	687

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科　目	30期	31期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,188	△514	Point 1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,124	△890	Point 2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△379	△635	Point 3
現金及び現金同等物に係る換算差額	△580	△102	
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△895	△2,141	
現金及び現金同等物の期首残高	9,681	8,785	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	－	84	
現金及び現金同等物の期末残高	8,785	6,727	

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point 1

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億円の支出となり、前期と比べ17億円の減少となりました。増加要因は、前期に業績の回復や生産の拡大により増加したたな卸資産および売上債権が、当期は増加額が少なかったことなどによります。減少要因は、前期に増加した仕入債務が大きく減少したことや前期からの業績回復に伴い法人税等の支払額が大きく増加したことなどによります。

Point 2

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期が11億円の支出であったのに対し、当期は9億円の支出となり、前期と比べ2億円の支出額の減少となりました。前期は、定期預金の預入れおよび当社の設備の改修などの有形固定資産の取得が主な支出となったのに対し、当期は、大久保事業所の売却による収入がありましたが、一方でタイ子会社株式の取得、金型および設備改修費用などの有形固定資産や業務効率化を目的としたソフトウエアなどの無形固定資産の取得が主な支出となりました。

Point 3

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期が4億円の支出であったのに対し、当期は6億円の支出となり、前期と比べ2億円の支出額の増加となりました。前期は、配当金の支払が主な支出であったのに対し、当期は配当金の支払や短期借入金の返済による支払が主な支出となりました。

iModelaでパーソナル市場の開拓をスタート

2011年11月9日に、パーソナル（個人）市場に向けた小型の3次元切削加工機「iModela（アイモデラ）」を発売しました。iModelaは、イメージをカタチにしたいと思うすべての皆様にデジタルものづくりを楽しんでいただくための製品です。今回は、iModelaの開発の背景やパーソナル市場に対する取組みをご紹介します。

●iModela概要

近年、モバイルやクラウドコンピューティングなど、デジタル技術やネットワーク技術の発展にともない、3Dデジタルデータが人々の身近なものになりました。その一方で、「何かをカタチにする」という実体験が少なくなっています。アイデアをカタチにして、見て触って実感する楽しさを提供することは当社の命題であり、iModelaはそれを実現する製品です。iModelaは、回転する刃物でアクリル板などの樹脂材料を切削する小型の加工機で、趣味としてものづくりを楽しむ個人の皆様に訴求しています。

開発の背景

当社は、3次元切削加工機や、彫刻機、3Dレーザースキャナーなど、長年にわたってさまざまな3D製品を開発してきました。主に製造業や彫刻業・宝飾業、大学などの教育機関に導入されてきましたが、「個人用の製品を」という想いは以前からあり、iModelaには、長年にわたり培ってきた当社の切削加工技術を惜しみなく投入しました。切削加工初心者にとっての使いやすさと、中上級者にも満足していただける性能をコンパクトなボディに凝縮しました。

■ 開発者の声

iModela開発リーダー　宮本 数人

iModelaには、「自分も楽しめるものを」という考えが込められています。それでいて一般の人に買っていただける値段を考慮しながら、世の中にないものを目指して開発しました。モーターや刃物は市販のもので代用でき、手軽に活用していただける構造となっています。また、その特性を活かし、自ら工夫しながら使うお客様の姿がWebを通じて実感できるのは、開発者にとって大変嬉しいことです。これからもお客様の声を参考にしながら、新しい製品の開発を進めてまいります。

ターゲットとなる顧客層と用途

メインのターゲットは趣味として模型やフィギュアなどを製作している個人の皆様です。模型改造用の部品やフィギュアの装備品、オリジナルアクセサリーなど、アイデア次第でさまざまな切削加工が可能です。また、ホビー系のイベントに製品と削り出したサンプルを出展したり、ユーザーライフを支援する特設サイト「icreate.rolanddg.com（アイクリエイト ローランドディージー ドット コム）」を発売と同時にオープンしたりと、さまざまなユーザー層へのアプローチを行っています。

▲イベント出展時の様子

▲特設サイト

iModelaが果たす役割と狙い

iModelaは、ものづくりの楽しさを広める以外に、デジタルネットワークを活用したビジネスモデルの構築をテーマとしています。icreate.rolanddg.comはFacebookやTwitterといったSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）と連動しており、iModelaを通じたユーザー交流が動き出しています。こうしたSNSや特設サイトを通じて趣味を共有している人たちに直接接触し、マーケティングを行うことで、パーソナル市場を開拓する基盤の構築に取組んできました。今後は、iModelaによって見えてきた可能性をもとに、パーソナル分野の事業化に向けた取組みを推進してまいります。

■3D事業分野の広がり

TOPICS 1 ドイツviscom（ヴィスコム）でBest of 2011 AWARDを受賞しました

2011年10月13日から10月15日までドイツ・デュッセルドルフで開催された「viscom düsseldorf 2011」において、デスクトッププリンターBN-20がBest of 2011 AWARDを受賞しました。viscomは、欧州地域でサイン、ディスプレイ、印刷などの「ビジュアルコミュニケーション」に関わる製品やサービスの見本市として20年以上にわたり続いている展示会です。Best of 2011 AWARDは、大判プリント、サインメイキング、照明広告の計3部門の製品やシステムに与えられる賞で、サインメイキング部門においては唯一、当社のBN-20が受賞しました。当社はビジュアルコミュニケーションの分野において、新たな表現手段としてメタリックカラーを提案し、また、これまで大型機の導入が難しかったお客様には、小型で手軽に使えるBN-20のような新しいコンセプトの製品でニーズに応え、市場の活性化や顧客層の拡大に努めています。今後もお客様のビジネスに新たな価値を提供してまいります。

▲授賞式の様子

TOPICS 2 アジア・パシフィック地域で「おもてなしプロジェクト」始動

アジア・パシフィック地域の8つの代理店を対象として、日本におけるイベント運営のノウハウを移植する「おもてなしプロジェクト」を開始しました。これまで同地域の展示会では展示の内容が製品の実演にとどまっていました。そこで当社の強みであるプリント＆カット機やメタリックインクの認知度向上に向け、差別化提案のプロモーション活動を強化する目的で始まったのが「おもてなしプロジェクト」です。各地の展示会に日本のスタッフが参加し、出力サンプルの展示による具体的な用途提案や、日本メーカーならではのきめ細かなサービスを行い、他社との差別化を図ります。「おもてなしプロジェクト」は2012年の年間を通じて行うもので、2月20日から23日に中国の広州で開催されたSign China（サインチャイナ）を皮切りに、順次展開しています。

▲中国広州での展示会の様子

おもてなしプロジェクト担当者の声

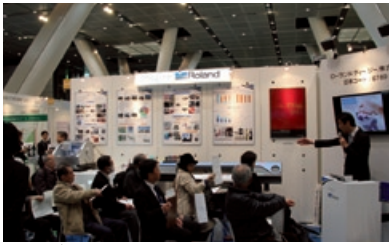
海外営業部 アジア・パシフィックグループ
内田 志美（写真後列左から2人目）

茶道に由来する「おもてなし」の精神を海外に移植するため、日本の展示会におけるブースを現地で再現する必要があります。もてなしの場となるブースの準備段階では、展示するサンプル製作など、若いスタッフが“Passion（情熱）”をもって取組んでいます。今後も、おもてなしを海外に浸透させ、お客様の付加価値を向上するための取組みを、より一層強化してまいります。

▲プロジェクトメンバー

TOPICS 3 個人投資家向け「東証IRフェスタ2012」出展

3月9日-10日、東京国際フォーラムで開催された個人投資家向けIRイベント「東証IRフェスタ2012」に出展しました。同イベントには初の出展であり、ブース内ではiModela、VS-420、DWX-50を展示・実演するとともに、ミニ会社説明会を行い、個人投資家の皆様に当社事業への理解を深めていただけるよう心がけました。また、特設会場で行った当社の会社説明会では、事業概要や新たな取組みについてプレゼンテーションを行い、多くの方にお集まりいただきました。今後も当社へのご理解を深めていただくため、個人投資家向けIR活動の内容充実を図ってまいります。



▲当社ブースの様子

TOPICS 4 太陽光発電システムの設置を一年前倒しで完了

当社は2008年度から「新たな創エネ5ヵ年計画」の下、都田事業所（浜松市北区新都田）屋上に太陽光発電システム（50kW）を設置する計画を進めてまいりました。計画では、毎年10kWのシステムを設置し、2012年度中に設置を完了する予定でしたが、社会全体の節電の必要性と意識の高まりを受け、2012年度設置予定分を一年前倒しして2011年10月に設置し、同計画を完了しました。これにより、本社に設置済みのシステムと合わせた発電量は年間約12万kWhに達し、CO_2排出量では年間約60tの削減を予想しています。当社は今後も、地球環境や社会全体に配慮し、排出物の削減と資源の有効活用に努めるとともに積極的に創エネ、省エネ活動を推進してまいります。

▲屋上に設置された太陽光発電パネル

新製品情報

2011年11月15日発表

Hi-Fi JET FH-740

発展するアジア市場に向けた次世代大判インクジェットプリンター

中国・韓国を中心としたアジア市場向けの水性インクジェットプリンターです。溶剤インクに比べ安価で画質と発色性に優れる水性インクは、近距離で見る屋内ポスターや掲示期間の短い屋外看板などで活用されています。FH-740で、水性プリンターのニーズが高いアジアのサイン市場で販売拡大を目指します。

2012年3月21日機能追加

VersaSTUDIO SIGN MAKER BN-20

新たにホワイトインクに対応したデスクトップサイズモデル

小規模のデザインオフィスやプリントショップなどに販路を切り拓いたデスクトッププリンターがホワイトインクに対応しました。透明フィルムなどの素材に白インクで下地印刷することで、より豊かな発色を実現します。軟包装パッケージやペットボトルのラベルデザイン用途で新たな市場を開拓します。

2012年3月8日発売

MPX-90M METAZA

メスや鉗子の追跡管理に適した小型精密マーキング装置

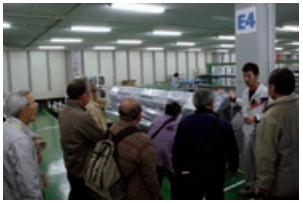
メスやピンセットなどの医療器具に滅菌管理や追跡管理用の製造番号や2次元バーコードを打刻する装置です。医療器具の管理を容易化するとともに、医療事故を未然に防止することができます。患者の安全を第一とする医療機関や医療器具メーカーにソリューションを提案し、市場開拓を進めています。

株主様向け工場見学会を開催しました

2012年3月22日、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を込めて「創業30周年記念 株主様向け工場見学会」を開催いたしました。地元の静岡県をはじめ関東や北陸、関西などから128名と多数の株主様にお越しいただくことができました。

生産拠点の都田事業所（工場）では、まず代表取締役社長の冨岡よりご挨拶を申し上げたのち、10名前後の班に分かれて工場見学に出発し、生産工程だけでなくピッキング（組立て材料の準備）や出荷工程、さらには電磁ノイズの発生を測定する電波暗室も見学いただきました。また待ち時間には、取締役・執行役員との懇親やアカデミーコーナー、体験D-Shopコーナーなどでスタッフと交流いただきました。

▲社長によるご挨拶


▲工場見学の様子

もうひとつの見学コーナーである本社に開設した歴代製品展示スペースでは、歴代主要製品の見学を通じて、当社の価値創造の歴史をご覧いただくとともに、直近の取組みへのご理解を深めていただくため、新たな市場開拓を進めている最新機種の展示・実演をご覧いただきました。

▲歴代製品展示スペースの様子

▲最新機種の実演

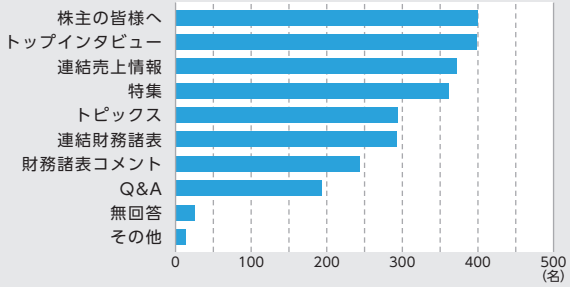
当日来場いただいた株主の皆様からいただいたアンケートでは、「製品を身近に感じることができた」「ものづくりに対して研究熱心である」などのご感想のほか、見学の時間配分などについてのご提案もいただきました。あわせて、多くの株主様から「また開催して欲しい」というご要望を頂戴することができました。これらの貴重なご意見をもとに株主の皆様に喜んでいただけるよう、今後のイベント運営の改善に努めてまいります。

DG Value News アンケート　期間：2011年12月9日～2012年3月31日　回答数1,233名（2011年9月30日現在の株主数10,119名）

第31期中間報告書より、本報告書のタイトルを「DG Value News（ディー.ジー. バリュー ニュース）」と変更いたしました。今後も、当社が提供する新しい価値を株主の皆様へわかりやすくお伝えできるよう、いただいたアンケートを参考にさせていただくとともに、株主の皆様からいただいた貴重なご意見・ご要望は今後の経営に活かしていきたいと考えております。

下記に株主様からいただいたアンケート集計結果の一部をご紹介いたします。

Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください（複数回答可）



冒頭の「株主の皆様へ」、「トップインタビュー」をはじめとして多くの項目にご興味をいただきました。特に、「特集」で取り上げたUV-LEDプリンターによる新たな事業軸の構築に向けた取組みには、「将来性を感じることができた」など皆様からのご感想をいただきました。一方で、「アジア市場など他地域への販売拡大を」など新興地域開拓の重要性につき、複数のご意見がございました。これを受け今号では、新興国の市場拡大に向けたタイ工場を中心とした取組みについてご説明させていただきました。

今後も皆様からのご意見・ご要望をもとに、当社の取組みをご理解いただける誌面づくりに努めてまいります。

会社概要

商　　号　ローランド ディー.ジー.株式会社
設　　立　1981年5月1日
資　本　金　3,668,700,000円
主な事業内容　コンピュータ周辺機器の製造販売
従 業 員 数　895人（連結）

▲本社

役員一覧（2012年6月20日現在）

取締役会長※1	五十嵐　正	取　締　役	吉澤　肇
取締役社長※1	冨岡　昌弘	社外取締役	広瀬　卓生
専務取締役	鈴木　渉	監　査　役	佐藤　仁郎
専務取締役	ロバート・カーチス	監　査　役	中川　正則
取　締　役	垣内　英之	社外監査役※2	木下　雅裕
取　締　役	伊藤　純	社外監査役※2	遠藤　克博
取　締　役	堀田　修史		

※1 代表取締役です。
※2 社外監査役 木下雅裕氏および遠藤克博氏は、（株）東京証券取引所が定める独立役員です。

特別顧問　梯　郁太郎

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

事業所

本　　社　浜松市北区新都田一丁目6番4号
都田事業所　浜松市北区新都田一丁目1番3号
営　業　所　札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡

海外グループ会社

Roland DGA Corporation（アメリカ）
Roland DG Benelux N.V.（ベルギー）
Roland DG（U.K.）Ltd.（イギリス）
Roland Digital Group Iberia, S.L.（スペイン）
Roland DG Mid Europe S.r.l.（イタリア）
Roland DG North Europe A/S（デンマーク）
Roland DG Australia Pty. Ltd.（オーストラリア）
Roland DG Deutschland GmbH（ドイツ）
Roland Digital Group（Thailand）Ltd.（タイ）
Roland DG EMEA, S.L.（ヨーロッパ）

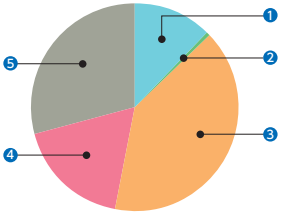
2012年3月31日現在

株式の状況

■発行可能株式総数……71,200,000株
■発行済株式の総数……17,800,000株
■株主数……12,889人

株主名	大株主の当社への出資状況	
	持株数	出資比率
ローランド株式会社	7,120,000株	40.00%
TAIYO FUND, L.P.	1,530,700株	8.59%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	657,200株	3.69%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	613,500株	3.44%
ローランド ディー.ジー.社員持株会	433,800株	2.43%
冨岡　昌弘	303,600株	1.70%
ビーエヌワイエムエル　ノン　トリーティー　アカウント	226,800株	1.27%
モルガンスタンレーアンドカンパニーエルエルシー	225,108株	1.26%
TAIYO BLUE PARTNERS, L.P.	213,500株	1.19%
ビーピーエイチ　フィデリティ　ロー　プライスドストック　ファンド（プリンシパル　オール　セクター　サブポートフォリオ）	210,000株	1.17%

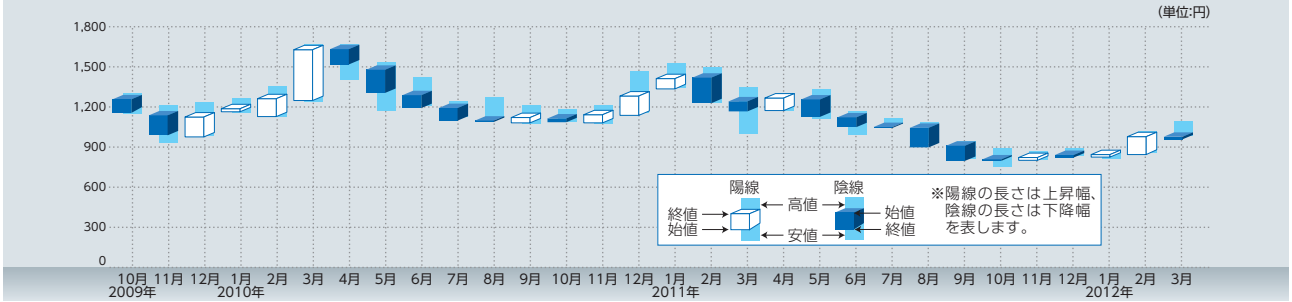
所有者別状況



❶ 金融機関
2,217,000株（12.46%）
❷ 金融商品取引業者
78,336株（0.44%）
❸ その他の国内法人
7,169,414株（40.28%）
❹ 外国法人等
3,185,070株（17.89%）
❺ 個人その他
5,150,180株（28.93%）

※自己名義株式393株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。
※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会開催時期	6月中
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 および期末配当金　3月31日 中 間 配 当 金　9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
公告方法	当社の公告は電子公告とし、 インターネットホームページに掲載します。 http://www.rolanddg.co.jp/ir/index.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711（通話料無料） 〔受付時間 9:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）〕 ホームページ　http://www.tr.mufg.jp/daikou/

株主優待	毎年3月31日現在の1単元（100株）以上所有の株主様に、年1回当社が選んだ世界各国の名産品（3,000円相当）を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。（2012年6月実績）
本誌に関する お問い合わせ先	広報・IR室　TEL 053-484-1400
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	法　務　室　TEL 053-484-1236

（ご注意）
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社など）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IRサイトのご案内

当社では株主や投資家の皆様に当社のことをより深く理解していただくとともに、最新情報をタイムリーに提供することを目的に、ホームページを活用したIR活動にも注力しています。ぜひ、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。

最新IRイベント

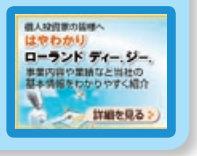
直近の決算発表日から個人投資家向けのIRフェアの出展など、IRに関する最新情報をお知らせしています。

IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

はやわかり ローランド ディー.ジー.

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。



今後も皆様のご意見を反映させながら、IR活動の充実を図ってまいります。

http://www.rolanddg.co.jp/
ローランド ディー.ジー.　検索

Roland®
http://www.rolanddg.co.jp/

UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

FSC www.fsc.org　ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK